

大韓顎関節学会(Korean Society of Temporomandibular Joint : KATMJ) 2025 Autumn Scientific Meeting 参加および日韓顎関節学会連携調印式(MOU)の報告

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科外科系医学領域顎顔面口腔外科学分野

大井 一浩

2025年12月7日、韓国・ソウルにて開催された大韓顎関節学会(Korean Society of Temporomandibular Joint : KATMJ) 2025 Autumn Scientific Meetingに参加するとともに、同日に執り行われた日本顎関節学会との連携調印式に出席いたしましたので、下記のとおり会員の皆様にご報告申し上げます。

本学術集会は、ソウル대학교 歯科大学院講堂にて開催されました。参加者はフィリピンからの参加者数名を含め約60名で、日本からは小見山理事長、理事の儀武先生、ならびに筆者の3名が参加しました。KATMJは1994年に設立された学会であり、今年度に世代交代が行われ、新理事長の Jin-hyuk Hwang先生、副理事長の Joo-Young Park先生を中心とした新体制のもと、約300名の会員を擁して新たなスタートを切ったとのことでした。こうした韓国側の新体制発足を契機として、2025年7月に開催された日本顎関節学会総会において日韓顎関節学会の連携について協議が行われ、今回の連携調印式(MOU)の実施に至りました。

午前のセッションでは、多学際観点からの顎関節疾患アプローチというテーマで、「CBCTだけで十分か?」、「MRIと比較した顎関節診断、相談型診療が顎関節障害患者における開口障害治療に及ぼす効果」、「顎関節問題を含む複雑な歯列不正の矯正治療 - どう治す?」が行われました。

午後には、日韓合同シンポジウム「Conservative Treatment Paradigms for TMJ Disorders in Korea and Japan」が開催されました。冒頭では小見山理事長より、今後の日韓連携を積極的に推進していく旨のご挨拶がありました。続いて筆者が「Development of Evidence-Based Clinical Practice Guidelines for the Management of Temporomandibular Disorders in Japan: Current Concepts and Future Perspectives」を発表し、次いで儀武先生が「The New Type Mouth-Opening Exercise



Device That Induces a Protrusive Sliding Movement of the Mandibular Condyle」を発表しました。韓国側からは、Oral Medicine の Junghwan Jo 先生が「Standardized Physical Therapy Protocols for the Management of Temporomandibular Disorders in Korea」を、同じく Oral Medicine の Hye-kyung Kim 先生が「Sleep Bruxism and Oral Appliances Revisited: Clinical Considerations for Patient Selection and Appliance Design」を発表されました。総合討論では、顎関節症のみならず、咀嚼筋腱・腱膜過形成症を含めた開口障害の難症例における効果的な開口訓練についても活発な議論が行われました。特に、開口訓練の具体的なプロトコルや、日本で使用されている各種開口訓練デバイスの活用について高い関心が寄せられました。また、韓国では各種理学療法に対してそれぞれ診療報酬が設定されていることが紹介され、日韓の医療制度の違いについて理解を深める機会となりました。診療ガイドラインに関しては、韓国においても顎関節症の病態に応じたガイドラインや外科的治療に関するガイドライン整備の必要性が共通の課題として認識されました。なお、本学術集会および日韓顎関節学会連携を契機として、韓国の歯科医療専門誌「Dental Arirang(デンタルアリラン)」より取材を受けました。取材では、日韓顎関節学会連携の意義、日本における顎関節症診療の現状と新たな治療パラダイム、ならびに運動療法や開口訓練を中心とした保存的治療の考え方について紹介しました。これらの内容は、同誌の特集記事およびミニインタビューとして掲載され、日本の顎関節診療および日韓連携に対する国際的な関心の高さを改めて実感する機会となりました。

日韓顎関節学会連携調印式は、学術集会終了後に Sejong Hotel にて開催されました。約 30 名の参加者が見守る和やかな雰囲気の中、両学会理事長が MOU(覚書)に署名し、固い握手を交わしました。その後、参加者全員による記念撮影が行われ、続いて記念祝賀会が開催されました。祝賀会の冒頭では、KATMJ 理事長である Jin-hyuk Hwang 先生ご自身がチェロ奏者として参加する顎関節クラシック五重奏の演奏が披露されました。来賓のご挨拶の後、韓国の名物料理が並ぶビュッフェ形式の会食が行われ、終始リラックスした雰囲気の中で、韓国の会員の皆様と今後の連携や交流の展望について意見交換を行うことができました。

2026 年に開催予定の日本顎関節学会学術大会においては、日韓合同シンポジウムの開催が予定されており、KATMJ 会員の皆様にも多数ご参加いただけることを期待しております。本連携を契機として、日韓両国における顎関節診療・研究・教育のさらなる発展につながることを強く期待しております。





22 Special Seminar

다학제 세션별 턱관절 질환 최신 임상 노하우 공개

한국-일본 재체결 기념 학술대회로 개최
각 분야 전문가들 한자리에 ... 영상·외과·교정 등 강연

[미니인터뷰] Kazuhiro Ooi 교수 & Hiroyuki Yoshitake 교수

ang@dentalarirang.com

토olumn 구축해
기기를 희망한
박진선 기자